

年間第19主日

福音朗読 マタイ 14・22-33

2023.8.13 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音では、イエス様がガリラヤ湖、湖の上を歩いて舟の上にいる弟子たちのところまでいらっしゃった、というお話が朗読されました。ただ、今日のお話の中で「湖」と訳されている言葉は、元々の新約聖書は古代のギリシャ語で書かれていますけれども、そこでは「海」とだけ表現されています。ですから、本来は海なんです。ただ、イエス様がガリラヤ地方で活動されたということをのちの翻訳した人たちは念頭に置いているので、「ああ、海と書いてあるのは湖ですね」と、こう意識するわけですけれども、そうすると、そこに籠められている象徴的な意味がわからなくなってしまうという面もあるわけです。

「海」というのは、聖書の中では乾いた「陸」と対立概念で、陸が神の民、そして海は神の民ではない神を知らない人たち——聖書の中では異邦人というふうに出てきますけれども——異邦人を象徴している言葉という面があります。ですから、イエス様が海の上を歩かれたというのは、イエス様の福音はイスラエルの神の民だけではなくて異邦人にももたらされる、イエス様の福音は異邦人の上にもある、そういう象徴的な意味を持っています。

そうでなければ、「イエス様が湖の上を歩いた」、「いや、そんなはずがない」、「いや、奇跡だから歩くんだ」、そういうような、そして「それが現代のわたしたちに何の意味があるのか」というような話になってしまいます。

しかし、福音書は、弟子たちがイエス様が自分たちに大切なことを教えてくれたということのをのちの世代の人に伝えるために書かれています。そこで実際にイエス様が海の上を歩いたかどうかということではなく（どちらに解釈してもそれは良いわけですが）、弟子たちが受け取ったことは、「神様の力は、そしてイエス様の福音はイスラエルの民だけではなくて全ての人の上に及ぶのだ」ということをイエス様を通して教わったということであり、実際に復活ののちに弟子たちは全ての人に福音を宣べ伝えるために出かけて行くということになるわけです。

宗教的また文化的な背景が異なっても全て神様の子、神に造られたものであり、全ての人の中には神の似姿が刻み込まれているからこそ、全ての人から

神様の御業に協力する神の民を呼び集めることができるのだ、ということをしてイエス様の生き方を通して弟子たちは学んだよ、ということが、今日のこの出来事を伝える福音書が一番言いたいことなのではないかなあとと思います。

それは、当時の弟子たちだけではなく、わたしたちもみんなそれぞれ違う背景を持っているし、また、違う文化、違う考え方、宗教も違う。しかし、全てが神の子として、その中に神様の似姿が刻まれ、良いものを皆持っているのだということに信頼をおくときに、わたしたちは互いに出会い、そして互いを通して恵みを受け、また与える関係——それを「神の国」と言います——を実現していくことができるということなのではないかと思います。

しかし、時にそのことを忘れて、違う、理解し合えないということ、色々の背景の異なる人と出会うということは喜びだけをもたらすのではないという現実を前にして、全ての人々が神の子であり全ての人の中に良いものがあるということをわたしたちが忘れてしまう、その時に、海の中に沈むということなのではないでしょうか。その時こそ、ペトロと同じように「主よ、助けてください」（マタイ 14・30）と、もう一回イエス様のお姿を見上げて、その助けを願わなければならないというわけです。

今日、わたしたちが平和旬間にあたって平和のために恵みを願うごミサを捧げる、その時に、全ての人に神様がご自分の似姿を刻まれ、そして良いものを分かち与えていらっしゃる、イエス様が証ししてくださったその恵みの現実に改めてわたしたちが目を開くことができますように。それはただ国際的なこと、社会的なことだけではなく、身近な人との関係こそから始まることだと思います。そのようにして絶えずわたしたちがイエス様を見上げ、「主よ、助けてください」と言いながら、自分の中にも、また他の人の中にも神様が良いものを備えてくださっているという、その恵みに気が付いていく、あるいは信頼することができますように、このごミサを通してイエス様をお迎えしまた導かれるその恵みを願いたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>